

認知症の種類と特徴

アルツハイマー型認知症

一番多い認知症。女性に多く、進行は緩やか。記憶障害が著しく、特に最近のことを記憶すること（短期記憶）が不得意になります。

【特徴的な症状の例】

- ・ 同じ質問を何度もする
- ・ 物事の段取（食事の準備など）が悪くなる
- ・ 日にちが分からなくなる
- ・ 約束を忘れる など

脳血管性認知症

男性に多く、脳梗塞、脳出血を起こした部分の脳細胞の死滅・減少で起こります。

【特徴的な症状の例】

- ・ 意欲が低下する
- ・ 物忘れがあるわりにはしっかりしている（まだら認知症）
- ・ 手足の麻痺がある など

レビー小体型認知症

初期のころはもの忘れより、うつ状態、失神、ふるえといった症状が出たり、幻視（目の前に無いはずの物が見える）を認めることがあります。

【特徴的な症状の例】

- ・ 子どもや虫が見えるという
- ・ 夢を見て反応し、大声を出す
- ・ もの忘れの症状は軽い など

前頭側頭型認知症

もの忘れの症状は軽く、意欲や理性、感情をコントロールすることが難しくなります。万引きや無銭飲食などで周囲を困惑させることも少なくありません。

【特徴的な症状の例】

- ・ 同じ時間に同じ行動をとる
- ・ 同じものを大量に食べる
- ・ 周囲への配慮ができなくなる
- ・ 嗜好性の変化 など

※ 高齢者の認知症においては、複数の原因が重なって生じることもあります。

※ その他正常圧水頭症、脳腫瘍、頭部外傷、甲状腺機能低下、アルコールの長期多飲 など

行動・心理症状(BPSD)

本人の性格、環境、人間関係などの要因がからみあって引き起こされる症状

※行動・心理症状は必ずしも出現するとは限りません。また、出現した場合でも、治療や適切な対応によって症状がやわらぎ、改善がみられることもあります。

- ・ 無気力になる
- ・ 物を盗まれたと騒ぐ
- ・ 道に迷う
- ・ 怒りっぽい
- ・ なかなか寝付けない など

中核症状 治すことが難しい症状

- ・ もの忘れ
- ・ 状況判断ができない
- ・ 計算ができない
- ・ 時間、場所、人が認識できない など